

## 海外シリーズ②⑤

### ブタペスト滞在記

榎本康宏

1997年10月より2ヶ月半、ハンガリーの首都ブタペストに滞在する機会を得ました。帰国後すでに1年以上が経過しておりますが当地での状況などを報告させていただきます。

今回、ブタペストに長期滞在することになりましたのは、現地にあります当社出資会社の新規ラインの設置と立ち上げ及び技術指導のためでした。

この会社はPOLIFOAM社といたしまして1884年に古河電工、伊藤忠、ハンガリーのPANNONPLASTが出資して設立された会社で、ハンガリーにおける日本とハンガリーの共同出資会社第1号です。この会社では当社より譲渡した発泡ポリエチレンシートの製造技術と2次加工技術を用いて製品をつくり欧州各国に輸出しております。

この都市で私はいっしょに行った数人の仲間と通称フラットと言われるアパートで生活しました。これは現地の会社の方が手配してくれたもので、アパートといっても建物はかなり老朽化していますが、60m<sup>2</sup>以上の広さがある2LDKで日本でいえばマンションのような感じでした。ここで、いっしょに行った仲間と自炊生活を行ったわけですが、ついた当初は町のかってが判らない上にハンガリー語が全く理解できなかったのが買い物一つをとっていろいろな苦労や失敗がありました。そんな我々がブダペストの町中を自由に行き来できるようになったのは、到着した当初、伊藤忠の現地駐在員の方から交通機関の使い方や、買い物に便利な場所などをひととおり教えていただけたおかげで1週間くらいで街中をわりあい自由に行動でき



ハンガリー工場担当の皆さんと

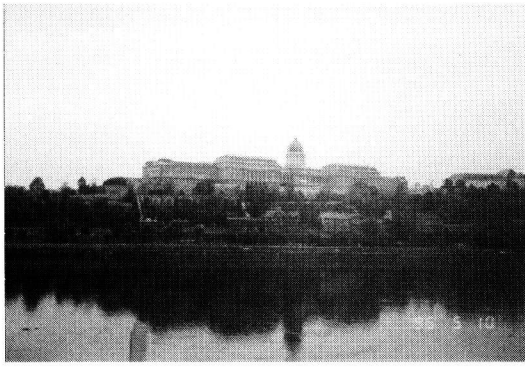
るようになりました。

市内の交通機関は地下鉄、市電、トロリーバス、タクシーがあります。地下鉄はヨーロッパ大陸最古の地下鉄1路線を含めて全部で3路線あり、デアークDeak広場を中心に放射上に走っています。また市内を市電とバスが縦横に走っておりこれらを利用すればふだんの生活にはほとんど困りませんでした。料金も市電・バス・地下鉄のどれに何回乗ってもかまわない1ヶ月利用可能なフリーパスが2500Ft(約1600円)なのでこのパスを利用していました。改札は基本的には自己申告なのでみつけなければ無賃乗車も可能です。そのかわり抜打ちで検札が行われ見つかると通常の料金(当時70Ft=42円お)の10倍請求されるとのことでした。この検札もバスなどでは私服で座っていた人がいきなり立ち上がって腕章をつけて検札を行うというもので外国人ということもあり、ほぼ毎回確認をもとめられました。また、食事などで夜遅くなった時はタクシーも利用しましたが流しのタクシーは乗る前に料金の交渉を行わないと法

古河電気工業株式会社勤務

1985(昭和60年応用化学料卒・新制35回)

1987(昭和62年大学院博士前期課程終了)



ハンガリーの旧宮殿

外な料金を請求されることが多く電話で呼ぶようにした方が安全です。

交通機関は便利なのですが、日常の買い物には苦勞しました。ハンガリーは社会主義時代から経済では東欧の優等生と言われていただけに物が無いということは無かったのですが、ふつうの商店は平日は6時くらいに土曜日は12時には閉まってしまうのに対して、私たちは仕事の関係で土曜も出社することが多く、食料品などの買い物が思うように出来ないのです。もちろん日曜は商店は完全に休みです。したがって、早く帰れる者が仕事の帰りにスーパーによってパンや牛乳を買い込むなど工夫をして対応しました。ハンガリーの人は普段は遅くとも5時には仕事を終わりにする上に、土日は必ず休みとなるので、これで十分間に合うそうです。もし、日本人の様に働いたらたちまち離婚だそうです。ただ、経済が開放されたことによりこのへんは徐々に変わってきており、土・日



ブタベスト市内風景

も開いているコンビニができたり、さらに土・日も開いているデパートも最近開店していました。ここは食料品も扱っており、日曜しか休めない場合に1週間分の食料品を買い出しにいったりと非常に重宝しました。

そのほかに、レストランもいろいろ行ってみました。到着した当初は郷にいれば郷に従えとハンガリー料理に挑戦したのですが、大量のバターなどを使った料理に胃袋が負けてしまい、1週間でギブアップしてしまいました。ただ、中華料理を始め各国の料理店が進出しており、特に日本料理店が有るのは非常にありがたかったです。また、ハンガリー料理も徐々に慣れてきたのとメニューを選ぶコツが判ってきたので、後半にはそれなりに楽しむことが出来るようになりました。

物価は円高だったこともあり、当時はかなり安く感じられました。たとえば牛肉の赤身が1kg=約300円、ビール500ml=約200円、赤ワイン750ml=300円などです。とくに市の中央にある市場に行くとかかなり大量に買い込んでも日本円で数千円ですんでしまいおもわず買いすぎてしまうこともありました。現地に行ったのが秋も終わりの時期だったこともあり、日没が早い上に、町並みが全体的にくすんだ感じがし、おまけに照明も西欧に比べ暗いため夜はかなりさびしい印象を受けました。(ただし、夏はかなり開放的だそうです)しかし、12月に入りクリスマスが近づくにつれて、町のところどころにクリスマス用品を売る露店が並び、それまでのくすんだ雰囲気が一気に華やかになったのが印象的でした。やはりキリスト教が広く浸透している国ならではの国ならではないかと思いました。

以上思い付くままに現地での生活を書かせて頂きましたが、普段の生活ではなかなか行くことの出来ない国に長期滞在できたことは良い経験になったと考えております。このことが多少なりとも今後の仕事に行かせたら幸いと思います。